

人にやさしく
地球にやさしい

大日新聞

60号

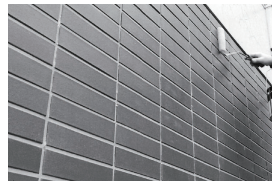
大日化成株式会社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755 FAX : 06-6909-6702
URL : <https://dainichikasei.co.jp>

通気緩衝工法 水分を逃がし防水層の
割れ・ふくれを防ぎます
BIGSUN
RX 工法

スカイコートW

＜タイル張り面の透明外壁防水材＞

スカイコートWは、透明度の高い水系ウレタン樹脂を主成分とした1液型外壁用透明防水材です。透明な塗膜を為、タイル仕上の意匠性をそのままに雨水の侵入を防ぐことができます。



透明な塗膜でタイル仕上の
意匠性はそのまま!!

主な特長

1. オール水系
2. 超高性能被膜
3. 優れた施工性
4. 防カビ・防藻機能

大日化成株式会社

大日化成チャンネル
動画で見る大日化成の最新情報

大日化成株式会社

ホーム 動画 再生リスト

詳しくは
YouTube
大日化成
チャンネルで

大日化成チャンネル

こんなところで活躍しています

スーパー屋上 (VUS500)



ポリマーセメント系塗膜防水が JASS8 に掲載されました

今年、2022年3月に日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS8 防水工事」改訂に伴い、この度ビッグサン防水工法も含まれるポリマーセメント系塗膜防水が JASS8 に掲載されました。これによって建築学会にも一人前の防水として認められ、これまで JASS8 に掲載されていたウレタン系塗膜防水やアスファルト防水等の防水仕様と肩を並べられる防水仕様となりました。

「建築工事標準仕様書」とは建築の質的向上と合理化を図るための適切な施工基準を作ることを目的として、一般社団法人日本建築学会が作成した仕様書です。

さて、これまでポリマーセメント系塗膜防水は「施工指針(案)」の仕様という位置づけでしたが、標準仕様書とどのように違うのでしょうか。少し説明させて頂き、施工指針(案)

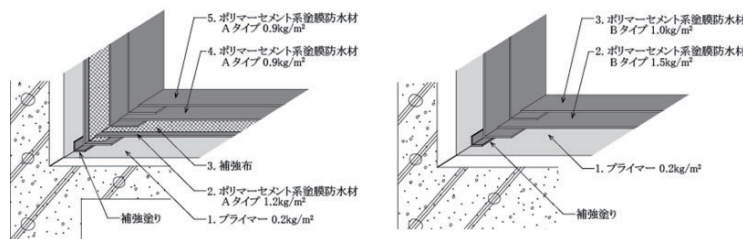
は、「新材料・新工法等の新技术を、正しく普及させることを目的としたガイドライン」というものでした。これに対して、標準仕様書とは「建築物の品質水準の均一化、使用材料・工法の標準化を目的とした契約図書」という意味合いです。要するに、建築学会の推奨工法ということになり、例えば仕様書に基づいて適用部位に対し、仕様書に基づいた施工を行った際に不具合等が発生した場合には、建築学会としても責任が掛かってきます。そのぐらい重みに差があります。

尚、今回 JASS8 に掲載された仕様は、これまで網羅されていた全ての仕様ではなく、次の2仕様に絞られています。まず旧施工指針(案)の PAV 仕様と相当する地上用 A タイプの材料に補強布を積層し、硬化後の標準厚み1.6mmとする C-PU 仕様。同じく旧施工指針(案)の PAV 仕様と相当する、地下・水槽用 B タイプの材料を塗り重ねた硬

化後の標準厚み1.2mmとする C-PU 仕様の2つとなり、弊社の適合工法としては、C-PU 仕様と地上用の PAV 工法と PAV 工法、C-PU 仕様と地下・水槽用の GRG 工法及び GR 工法となります。

分類は、どちらの仕様も不定形材塗布・吹付け防水工事のセメント系防水工事に分類されています。

その他の工法については、今回の改訂で必ず盛り込まれるように、工業会で引き続き使用実態調査や実用性能の検証活動を行い、それを建築学会に蓄積し更なる信頼性の証明を行っていく予定になっております。尚、JASS8 掲載は最終のゴールではありません。仕様の追加ももちろんですが、今後更に適用部位を増やしていくという課題もあり、それには製品の更なる改良も必要になるかもしれません。今後ともご期待下さいませ。よう、宜しくお願い致します。



JASS8 C-PF 仕様

JASS8 C-PU 仕様

JASS8 C-PF仕様とC-PU仕様の概念図



さて、今回の現場で採用に至った経緯としては、ある設計事務所から事務所にかつてきた1本の電話が始まりでした。まず問い合わせを頂いた設計事務所に材料説明に伺い、そこから大阪府の担当者を紹介して頂き、商品の特長や、施工実績など、丁寧に説明を行いました。現場のすぐ隣に高校があり、臭いの問題が無いという点が特に心配な様子だったため、実際の材料のサンプルを持参して臭いを嗅いでもらい、問題ないこと

とを確認してもらえたことが採用に繋がる大きな要因だったと思います。

実際に施工中の現場にも何回か訪問させて頂きました。職人さんが一番大変だとおっしゃっていたのが、タイル目地の施工です。今回の現場では、タイル目地の深さが3mmから、深い箇所では5mm程度あったため、ローラーで一度材料を施工した後にはハケで目地部分を再度塗るというかなり手間のかかる作業だったようです。しかし、防水専門の職人さんということもあり、その辺の仕事はきちんと納めてくださり、最終的には塗膜の厚さもしっかりと確保されていて、キレイに仕上がっていました。

完了しました。

完了検査も無事合格となり、今はホッとしています。このような歴史ある建物に、スカイコートWを採用して頂き、今後のPR活動にも一役買ってもらえる現場になりました。

下地調整材シリーズ 他工法でも活用いただけます

スカイレジンWE

スカイレジン WE は水系エポキシ樹脂をベースとするローラー施工タイプのエポキシポリマーセメント系下地調整材

EPC-T

2材型・水系エポキシ樹脂ベースの薄付けタイプ素地調整材 下団1種合格品
エポフィラー
水系エポキシモルタルでありながら画期的な2材で使いやすい

プライマー-E

各種溶剤系及び無溶剤系、水系材料の下塗りプライマーとして使用が可能

大阪府庁舎本館外壁改修工事に スカイコートWが採用されました

2016年に発売を開始した透明外壁防水材・スカイコートWですが、おかげさまで知名度も上がり、施工実績も着実に積み重ねております。今回、大阪府庁舎の改修工事で採用頂き、4月末で無事施工も完了しましたので紹介させて頂きます。

今回改修工事を行った大阪府庁舎本館は、大阪城の近くにある大阪府民にとっては馴染みの深い場所です。1926年(大正15年)に竣工された歴史ある建築物で、令和3年10月14日に国の登録有形文化財にも指定されております。今回

は全部で4面ある外壁のうち北面全体を施工させて頂きました。北面だけでも施工面積は1000㎡を超え、今まで施工してきたスカイコートWの現場の中でも最大級の規模になりました。

改めてスカイコートWは、プライマー・防水材・トップコートの3種類全ての使用材料が1材型で現場での計量・材料の混合攪拌が不要なため、施工性に優れた材料となっております。また、全ての材料が完全水性ですので、作業中の臭いの心配もなく、施設を使用しながら改修工事を行なうことができる状況でも臭いのクレームが一切無い施工が可能となります。

改めまして、今回の現場で採用に至った経緯としては、ある設計事務所から事務所にかつてきた1本の電話が始まりでした。まず問い合わせを頂いた設計事務所に材料説明に伺い、そこから大阪府の担当者を紹介して頂き、商品の特長や、施工実績など、丁寧に説明を行いました。現場のすぐ隣に高校があり、臭いの問題が無いという点が特に心配な様子だったため、実際の材料のサンプルを持参して臭いを嗅いでもらい、問題ないこととを確認してもらえたことが採用に繋がる大きな要因だったと思います。

BIGSUN ラピタルエース

＜速硬型軽量プレミックスモルタル＞

コンクリート欠損部の補修に最適なポリマーセメントモルタル



速硬
軽量
薄塗りから
厚塗りまで可能
取扱簡単!!